



CSIを活用した学生が
和歌山県データ利活用コンペティションで

大賞受賞



Csigram



社会情報教育研究センター

社会情報教育研究センターや所属学部で提供される教育コンテンツを活用して、
第2回和歌山県データ利活用コンペティションで大学生の部の大賞を受賞したおふたりに、お話を聞きました。

経営学部経営学科4年（受賞時経営学部3年生）加藤光 フォロワー7万人 フォロー中2019人
経営学研究科経営学専攻1年（受賞時経営学部4年生）森西美光



フォロー中 ▾

メッセージ

メール



企画の内容

加藤君・森西君 各官庁のデータから基礎集計および回帰分析や主成分分析などを行ったことで得られた知見をもとにグループワークを行い、和歌山県の地理的強みである港や空港に近いことや、農業支援制度の充実という制度的な強みを生かして6次産業学校という和歌山県にとって新しい農業の仕組みを考案しました。

「いいね！」 21,690件

特に苦労したところ

加藤君 「伝わらなければもったいない」を信条に、施策の魅力を最大限伝えるプレゼンをすることに苦労しました。特にチーム全員で切磋琢磨した集計・分析は内容が複雑になるためわかりやすく伝えることに頭を悩ませました。その際に先生・先輩から教えていただいたストーリーテリングを踏まえて提案資料を再構成した結果、当日は多くの方から非常にわかりやすかったと言っていました。

森西君 特に苦労したのは施策を考えるところです。今回のコンペでは和歌山県を活性化する提案をするところからスタートしました。情報収集の段階で和歌山県の強み弱みはわかっていたのですが、そこから何が新しく斬新で実現性があり、和歌山県を活性化できるかグループで様々な案を考えましたが、どれも何か要素が欠けていて提案内容に落ち着くまで一番時間がかかりました。



「いいね！」 50,321件

立教の学びで役に立っている事や今後について

加藤君 CSIのコンテンツやゼミなどで学んでいる統計手法に加えて、経営学部のBLPを通じて得た論理思考や施策提案を生かして掛け合わせた結果、自分達ならではの提案をすることができました。今まではアイデアを先行させた提案を出すことが多かったです。そんな中、大学生活で学んできた統計学の視点を活用した提案を評価していただいたことは、私にとって初めての実践経験でありとても大きな自信に繋がりました。AccessやRをはじめとする様々なツールを用いた分析に触れることができたのでさらに地に足の着いた数々の知見から大規模な社会課題の解決に一翼を担ってまいります。

森西君 1年次よりBLPというアクティブラーニング型の授業でグループワークに慣れていたこと、授業で包括的な経営学の知識を学んでいたこと、ゼミナールで統計的思考や統計手法を学んでいたこと、統計検定や社会調査士の資格取得のための科目履修など学んできたこととあらゆることが、この大賞に繋がったと考えています。今現在、立教大学大学院経営学研究科に進学し、ビジネス領域で役立つ統計モデルの研究をしています。将来的には大学・大学院で学んだ包括的な経営学や統計学の知識を駆使して、ビッグデータなどのデータから価値を創造し、社会に貢献できる人間になりたいと考えています。

「いいね！」 34,688件



データサイエンス副専攻科目を学んで、学外のコンテストへチャレンジ!

社会調査や統計学、データサイエンス副専攻の学びを実践する場として、学外のコンテストに参加することをお勧めします。学内の学びという練習から、学外のコンテストという対外試合の場を利用してください。さらに、その振り返りをしっかりすることで、次の学びへとつながると思います。だれでも参加できるコンテストを紹介します。また、サイトには、過去の入賞作品もアップされていますので、統計活用の具体例を知ることができます。レッツチャレンジ!

統計データ分析コンペティション (総務省統計局)

教育用標準データセット (Standardized Statistical Data Set for Education: SSDSE) を利用し、高校生・大学生を対象に、統計データの利活用と、分析技術の醸成を図るために、総務省統計局が実施する統計分析コンペティション。

<https://www.nstac.go.jp/statcompe/>



マーケティング分析コンテスト (野村総合研究所)

野村総合研究所が収集した消費者マーケティングデータを学術研究やマーケティング実務へ活用することを目的に2007年から実施しているマーケティング分析コンテスト。最優秀賞を受賞すると賞金20万円が授与される。

<https://www.is.nri.co.jp/contest/>



和歌山県データ利活用コンペティション (和歌山県)

和歌山県はデータ利活用による県内産業の活性化、次世代のデータサイエンティスト育成を目的に「和歌山県データ利活用コンペティション」を開催する。大学生の部のテーマは「少子・高齢化による地域の消費への影響」。大賞は、副賞として商品券20万円が授与される。

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/020100/d00201199.html>



経営科学系研究部会連合協議会データ解析コンペティション

経営科学系研究部会連合協議会が20年以上にわたり開催する「共通の実データを元に、参加者が分析を競う」ことを目的としたデータ解析コンペティション。

<https://jasmac-j.jimdo.com/>



スポーツデータ解析コンペティション

データスタジアム株式会社が提供する野球およびサッカーの実データを利用し、応用研究の促進と研究結果を現場に還元することを目的として、日本統計学会スポーツ統計分科会が主催するスポーツデータ解析のコンペティションで、プロスポーツの実際のデータの分析ができる。

<https://estat.sci.kagoshima-u.ac.jp/sports/compe05.htm>



RESASアプリコンテスト

人口動態や産業構造、人の流れなどに関するビッグデータを集約し、可視化することが可能なRESAS(地域経済分析システム)を利用した地域経済の分析や、地域の発掘に役立つアプリケーションを募集するコンテスト。

<https://opendata.resas-portal.go.jp/contest3rd/index.html>



● 関連情報

データサイエンス副専攻と関連する資格や検定試験についての情報です。

ともにデータサイエンス副専攻を主管する社会情報教育研究センターで対応していますので、質問等がある場合は下記連絡先までお気軽にお問合せください。

● 社会調査士資格

「社会調査士」は、一般社団法人社会調査協会によって認定される資格で、インタビュー調査やアンケート調査の方法を学び、統計や世論調査などの結果を批判的に検討するなど、社会調査の現場に必要な能力を持った「社会調査の専門家」のことです。資格取得のためには、標準カリキュラムのA~Gに対応している科目を取得済みであること、学部を卒業することが必要です。

● 統計検定

「統計検定」とは、統計に関する知識や活用力を評価する全国統一試験です。データにもとづいて客観的に判断し、科学的に問題を解決する能力は、仕事や研究をするための21世紀型スキルとして国際社会で広く認められています。

■ News Letter 第3号 2019年6月発行

- 編集責任者：水上徹男 (CSIセンター長)
- 編集者：山口和範 (統計教育部会)
- 編集・発行：社会情報教育研究センター (CSI)

- Tel : 03-3985-4459
 - Email : csi-info@rikkyo.ac.jp
 - <https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi>
- 立教大学 池袋キャンパス 8号館4階

